

地域の歴史とアイデンティティ

「いま、この場所で、仲間とできることをやる」

庭山 貴行 (にわやま たかゆき) さん

1974年室蘭市生まれ。青山学院大学経済学部卒業後、東京で雑誌編集、デジタルコンテンツ制作・情報配信、マーケティング・広報、フリーライターなどを経て、2013年に室蘭に戻り起業。カラダにやさしい焼き菓子和パンの店『ナニナニ製菓』を営みながら、北海道室蘭・西胆振地域からの食と文化の情報発信に力を入れている。3人の息子たちの父。趣味は映画鑑賞、溪流釣り、温泉めぐり。

店舗の前で。窓には地元イベントのポスターがずらり

北海道に移住（U・I・Jターン）して、地域を巻き込む取り組みをする輝く人を紹介するインタビュー。お話を伺うのは、北海道各地を探訪し想いを形にする人との出会いをつなぐ、地域プロデューサーのかとうけいこさん。36回目となる今回は、2016年に室蘭工業大学の清水一^{しみず かずみち}道・元教授とのコラボで作り上げた「鉄の素」クッキーの開発をはじめ、地域のアイデンティティやそこに関わる人たちの誇りを大切に、地域愛をベースにしたワークシェアリングを実践する、庭山貴行さんです。

Uターンのきっかけを教えてください

主な理由として2つあります。子どもが生まれたことで、パティシエをしていた妻が、子どもに安全安心なものを食べさせたいと、オーガニック・無農薬といっ

た食材に注目するようになりました。2つ目は、東京ではなかなか手に入らない、良質な食材が、室蘭やその周辺では比較的身近にあることを帰省した時に気がついたのです。この辺りって、野菜に果物、魚、肉、乳製品となんでもあり、全国レベルの質の良いものがたくさんあり手に入りやすいと気づきました。生産者と出会い、こだわりや情熱を持っていることも知り、西胆振の食材の魅力を発信しながらお店をやるのも面白いかなという気持ちが芽生えました。

移住までの準備はどんな感じでしたか？

移住に関しては、3～4年前から準備を始めていました。パティシエの妻とともに西胆振の食材でパンやお菓子を作って売ろうと考えていたので、室蘭にどれくらいパン・お菓子のお店があって、人口比は東京とどれくらい違うのかなど、マーケティングリサーチ的

なことにも時間をかけました。起業に関しては、行政の窓口や商工会議所などで行っている独立支援や助成金をしっかり調べて、利用しました。

地域の人たちとの関わり方を教えてください

地域の会合などに顔を出して、地域の役職や仕事はできるだけ受けるようにしてきました。移住当時自分は30代後半でした。上の人と下の人をつなげる重要な世代なので、頼まれごとをした時には、照れたり遠慮したりせず、どんどん関わっていくようにしていました。帰ってきた当時は母親もおり、高校まで室蘭育ちだったから友達もいますし、IターンやJターンの人に比べたら受け入れられやすい環境だったとは思いますが。

地域の仲間との熱いプロジェクトが途切れませんね

はい。同じ時間や体験を共有することで生まれる絆から新しい何かが生じる瞬間をずいぶん見てきました。取り組んだ順で振り返ると、室蘭VOX、西いぶりファーマーズマーケット、DRIVE IN 花火大会、URBAN TAKIBI、ウォークブル・イン・ナカジマ、中島フェス…など。こうした地域の仲間と取り組むプロジェクトは、儲かるか儲からないかという視点では、間違いなく儲からない。何より大切な時間も使います。でも、“人と人との出会いは奇跡、それはつまり愛だ！”なんて、真面目に語り合える仲間がいて、みんなの想いが詰まっている準備期間、当日そして次の企画を考えている時間は最高なんです。だから、やめられないのかもしれない。ただ、この12年で自分が発案したイベントの多くは、僕よりも継続する力があり、もっと良いイベントに育てられる人たちに引き継いでいきたいと思っています。

譲れない、引き受けてもらえないプロジェクトは？

「シアタープロジェクト室蘭VOX」です。僕はプロジェクト型劇団と呼んでいます。室蘭及び、西胆振地域での舞台芸術や文化芸術活動の開催を支援するために2013年に設立した団体で、初代代表は母でした。市民向けワークショップを行い、プロの役者数名と市民公募で10～20人ほどの役者や裏方で舞台を作り上げていきました。20～50人のチームが必要で演劇一本やる

と、立場も年齢も違う人たちがすごく仲良くなって、それが続くのです。

本で鉄の町の歴史を読むよりも、劇を見るとストーリー（物語）として伝わるので、大人も子どもも感動しているのが伝わってきます。世代間のコミュニケーションの懸け橋になっているのかな。地域の歴史が演劇を通じて、後世につなげられることは意義があります。演劇が及ぼす地方都市への可能性が見えるから続けていきたいのです。

「鉄の人～室蘭の製鉄業の祖 井上角五郎の半生～」、「波濤～北の海運王・栗林五朔と栗林商会の物語～」について教えてください

明治から昭和にかけて、日本の近代化を支えてきた歴史のひとつが、北海道の「炭鉄港」でした。空知地方で採掘された「石炭」を室蘭の「鉄鋼」、室蘭・小樽の「港湾」、これらをつなぐ「鉄道」。これは北の産業革命とも呼ばれ、北海道はもとより日本の発展に大きく貢献しました。日本の近代化で重要な位置を占めた炭鉄港は、室蘭の人たちの誇りです。これに真正面から取り組んだ演劇が2つの作品です。『波濤』は2022年12月の初演は演劇でしたが、その後は朗読劇として小樽市や室蘭市で上演しています。何もないところに製鉄所を作った人、港の発展のために尽力し続けた先人たちの精神に触れる機会を作ること、次の世代の若い人たちにシチズンプライド*の醸成ができるはずと信じています。

限られた自分の時間を考えると、今ここでやらなければならぬもの、この場所でなければできないこと以外をやる時間はないのかなと思っています。

(2025年9月取材)

インタビュー後記

庭山さんと初めてお会いしたのは2023年の秋、登別でのまちづくり研修会だったと思います。名刺交換し立ち話をした時に、お菓子屋さん？いや、もっと枠を超えた動きをされている方に違いないとピンとききました。今回、お話が面白すぎて予定の3倍もの時間を頂戴しました。自分が育ったまちへの愛、誇り、仲間への信頼を感じ、庭山さんと室蘭から目が離せなくなりました。

かとう けいこ (株)まちづくり観光デザインセンター代表

* シチズンプライド

自分たちが暮らすまちを誇りに思い大切にしたいという気持ち。